

県民不在の政争は如何なものか



会派のメンバーで埼玉県中央児童相談所を視察し、現場で課題を聞く

上田知事への嫌がらせに、県民不在の

前代未聞の決議を可決

各都道府県でも、県民に対する功労賞など、議会の承認を得なければならぬ。これは、実は埼玉県だ

か、上田知事への嫌がらせに、県民不在の

前代未聞の決議を可決。自民党議員団と他に二人の議員だけで可決させてしまったんです。公明党

政務活動ビデオ(動画)を公開中!



★埼玉県政に関する身近な話題を動画で配信しております。

鈴木正人のホームページに動画も掲載しておりますので、どうぞご覧ください。ホームページアドレス <http://masato.trans.ne.jp/>

検索エンジン→ **鈴木正人** まで

政務活動費不正受給事件後二年経過も議会改革は全く進まず

第二回定例会も終わりましたが、相変りませんでした。ドタバタや、議会議事は全く進まずの状況は続いております。

前にも触れたんですが、総理が決めると国民栄誉賞も国会の議決案件ではないんです。各都道府県でも、

は、正直首を傾げざるを得ません。また、何と云って

と決議に反対してると決まっています。明らかに全国知事会という全く違う団体に対する、内政干渉の決議。

「自粛」する条例であって、条例違反というの間違った指摘なんですかね。その後、選挙で民意も得てますし、この議案を埼玉県議会がしたと各知事に教えた所で「はあ？」というような内容。

政務活動費不正受給事件後二年経過も議会改革は全く進まず



猛暑の中でも、志木駅前での定例の拉致被害者救出署名活動を続けております。

やまわらめか新聞

第96号

発行者 無所属県民会議 県議会議員鈴木正人 〒353-0002 志木市中宗岡1-1-2 TEL048-476-7525 FAX048-476-7526

県政レポート2018 *suzuki masato* No.96
 埼玉県議会議員 無所属県民会議
鈴木正人
 ホームページ <http://www.trans.ne.jp/masato/>

平成30年 第二回定例会を振り返って



彩の国功労賞授賞式の様子。2月に活躍した選手の表彰が、議決案件になってしまったため7月の授賞式となった。

平成30年第二回(6月)定例会は、地方税法等の一部改正に伴い、県たばこ税の税率を引き上げるため「埼玉県税条例等の一部を改正する条例案」など、19議案が可決され閉会しました。

今回から議決案件となってしまった「彩の国功労賞」の贈呈については、2月の東京マラソンで日本新記録を樹立した設楽悠太選手と、平昌パラリンピックでアルペンスキー女子座位の金メダルなど、5つのメダルを獲得した村岡桃佳選手の案が同意され受賞が決まりました。

尚、全国知事会に対して上田清司知事を全国知事会会長に選出したことの認識を問う「全国知事会の認識を問う決議」案に対しては、全国知事会という全く違った団体に対する内政干渉で、失礼であり、逆に埼玉県議会の認識が問われる事になるので反対しましたが、賛成多数で可決されました。

埼玉新聞にインタビュー記事が掲載される

昨年大ヒットしたドラマ「陸王」は、埼玉の魅力や全国に発信し、その経済波及効果はドラ



無所属県民会議 鈴木正人 代表

埼玉県は昔から主な街道が集まる交通の要衝であり、陸運の面や地政学的に非常に優れてい

私たちは、県民の皆さまが誇りを持って「陸王」埼玉県の発展に全力を尽くしてまいります。

「陸王」埼玉の魅力発信を



ブロック塀等の安全対策を求める要望書を知事に提出

大阪北部地震を受け、埼玉県の教育局が1937校の公立学校ブロック塀などを緊急調査した結果、約4分の1に当たる351校で建築基準法に適合してない疑いがある事が判明しました。

そこで、我が会派「無所属県民会議」は上田知事に対して、安全対策を進めるために、各市町村が行う小中学校のブロック塀等の安全対策に対し、早急に財政的支援を含め県が協力して行う事や、国への財政支援と協力を求めること、さらには全国知事会においても小中学校を始め公共施設のブロック塀等の安全対策の推進を検討することなど、「学校のブロック塀などの安全対策を早急に進めることを求める要望書」を提出いたしました。

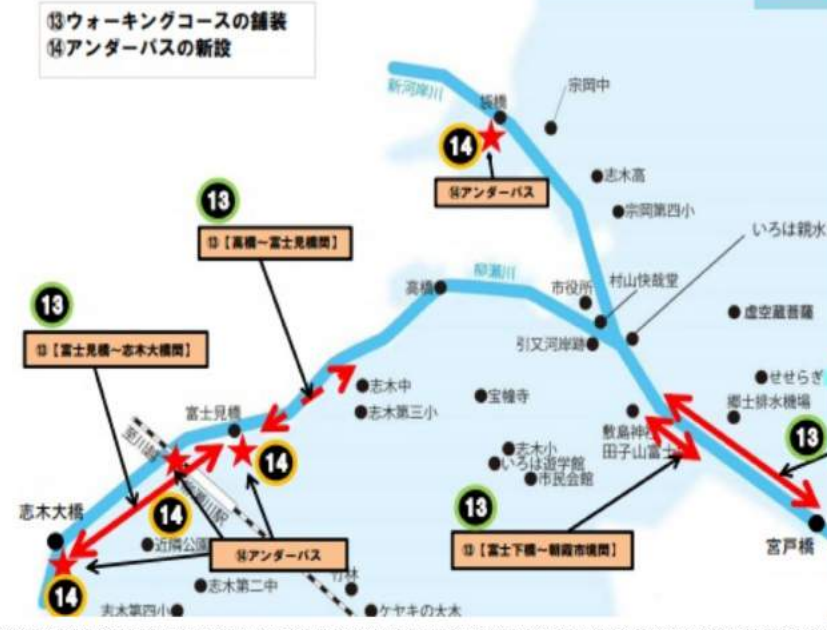


志木大橋～富士見橋間の舗装予定地を動画でレポート

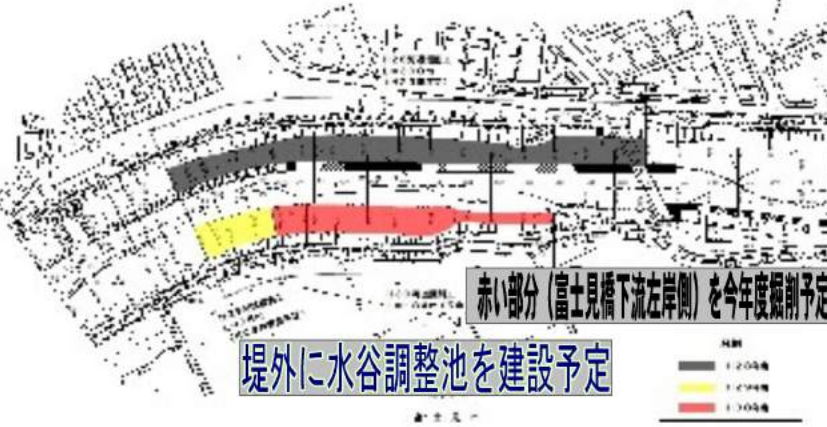
いろは親水公園の整備事業が行われている「川の国埼玉はつらつプロジェクト」ですが、新河岸川や柳瀬川の土手の舗装化や整備、アンダーパス化も今後(平成31年度以降)行って行き、ウォーキングしやすい環境をつくってまいります。

- ▼行われる歩道の舗装は・富士見橋～志木大橋間
・高橋～富士見橋間・富士下橋～宮戸橋間
・富士下橋～朝霞市境間 となります。
また、アンダーパス整備は、志木大橋、富士見橋、袋橋となります。

柳瀬川町内会会長 竹前栄二さん達と朝霞県土事務所に柳瀬川下流部の河道掘削を要望

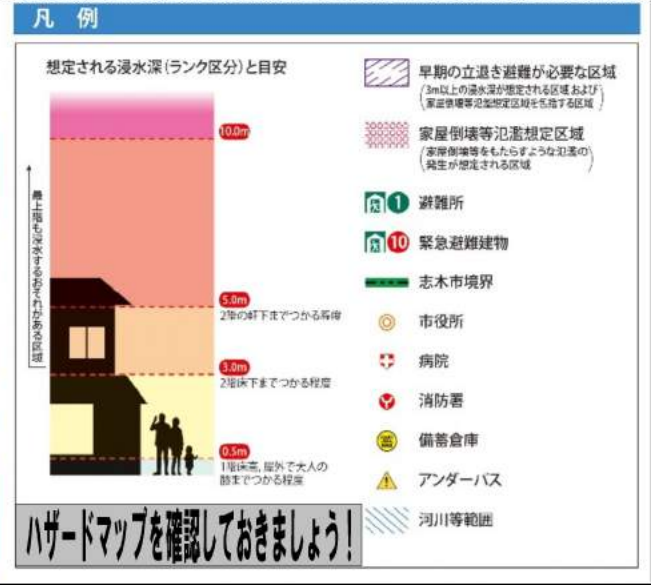
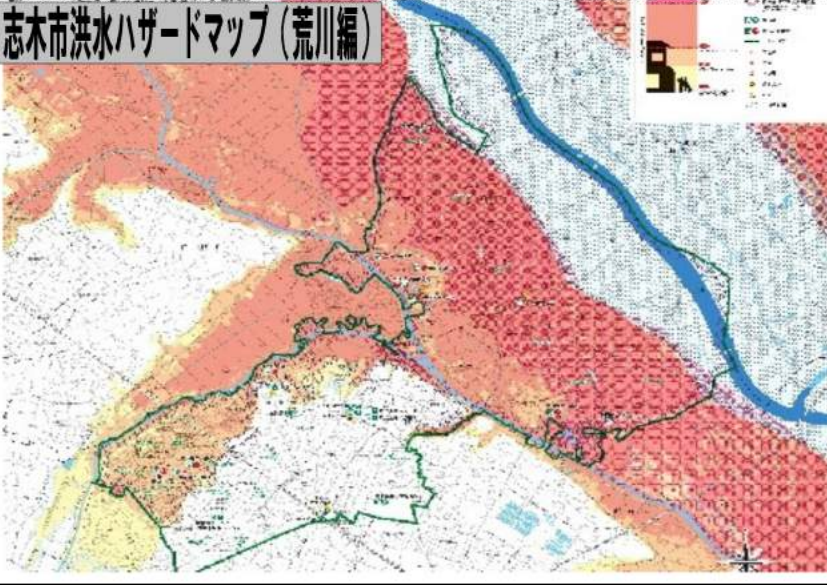


柳瀬川の河道掘削について



河川の決壊を未然に防ぐ効果が期待される、柳瀬川の河道掘削は、平成30年度は富士見橋下流左岸184mを予定しております。また、西日本豪雨災害もありましたので、近隣の町内会長さん達と共に、さらに下流部分の河道掘削を今年度中に行うよう県に要望いたしました。尚、志木市柏町6丁目の対岸側に、約6万トンの水谷調整池が建設予定となり、今年度詳細設計をする予定です。

西日本豪雨災害の教訓から学び、洪水ハザードマップを確認して、いざという時は早目の避難が必要です。(志木市HPより)



テレ玉(3ch)の県議会広報番組に出演



こんにちは県議会です「各会派代表に聞く」に出演し抱負を語りました。放映日は平成30年8月26日(日)午前10時から テレ玉(3ch)となります。

放映日後はHPで動画配信します

依然として県議会のあり方、議会改革の話し合の場は設けられず!
埼玉県議会の議会改革も今の所、どんなに歴史も長く申し入れをしても、全く進める気が感じられないですね。大幅な議員定数の削減の実行や、意見書の取り扱いなどを公平に扱ってほしいと志木市議会時代が懐かしいです。県議会のドンが進める気が無ければ、全く何も進まない。

不正受給事件の教訓から、政務活動費の領収書のネット公開を求め、我が会派全員が紹介議員となつて、採択を求めた「政務活動費の支出を証明する領収書のインターネット公開を求むる請願」は4度目の継続審査となつてしましました。議員辞職者が出た不祥事があつても、一年間棚ざらし状態です。また、開かれた議会のために全ての請願を掲載するよう、「すべて掲載するよう、」すべての請願を掲載することを目指す請願」についても県民から言われる筋合いは無いとばかり、

不採択。依然として、議会改革を議論する場も設けられておらず、議会運営委員会で適当に押しなでいるのが現状なんですね。来年度の統一地方選挙前になつたら、少しは動くんでしょか。常にメディアや県民の目が光りにくい、県議会の悪い特徴が浮き彫りになってますね。県議会の定数や選挙区割りも、どうなる事やらという感じです。何せ参議院でも議員定数を増やした位ですから、県議会もどうなる事やらわかりません。厳しい目で、目を光らせておいてください。国政政界における野党が、政権に対して批判のための批判ばかりで、一体我が国をどうしたいのかがよくわかりません、あまりにも頼りなく見える事もある、議会でも多数を占めた側による、何でもありという雰囲気、最近顕著に表れているように思えてなりません。ただ、議会と知事が緊張関係にある事で、実は評価出来る事も行

議会の条例提案は評価!
それは、議員が独自に条例案を多数出すようになった事ですね。「埼玉県虐待禁止条例」や、「埼玉県主要農作物種子条例」などは、知事への対抗意識や執行部へのプレッシャーの意味でもあつても、条例提案に関しては、素直に過半数を持って第一会派の行動を評価して貰います。目黒区で五才の女の子が虐待死させられた事件では、本当に心から怒りを覚え、こんな痛ましい事件は二度と起こしてはならないと多くの方が思ったのではないのでしょうか。もの凄く勢いで増え続けている、児童相談所への相談件数などを考えれば、児童虐待に厳しく対応するのは当然です。八月からは、完全に警察と児童相談所も情報共有されます。また、昭和27年に制定された種子法。

戦後の国家的要請を背景に、国・都道府県が主導して、優良な種子の生産・普及を進めるため制定されたんです。昨日民間の品種開発意欲を阻害して、品種法は廃止されてしまったんですね。しかし、主要食料を安定的に供給するためこれまでに築き上げてきた制度や体制を弱め、米・麦などの優良種子の供給が不安定になるなどの声も、農業関係者などから寄せられていたんですね。そこで、県が優良な種子を安定して生産できるように、予算を確保すること等を定めた、「埼玉県主要農作物種子条例」の提案は良かったと思つてます。そもそも、日本のタネが外資に支配されてしまつてはならないかと懸念された種子法を、廃止する必要は無かつたんですが、条例を制定した事で、農業関係者も「今回の条例で優良種子の安定的な確保がより確実になつた」と安堵して居るんですね。ですから、県議会でも全会一致で可決されたいですね。

こうした、政策提言、議員条例提案型の議会には、執行部は大変かも知れませんが、評価も出来るし、良い内容のものであれば、賛成して協力もいたしますよ。ただ、残念なのは、他の会派からの提案、特に議会改革に関する条例改正案には乗ろうとしないので、最初から理屈をつけて通さないという事の無い様、公平に検討してもらおうと、緊張の中でも活発な議論の出来る県議会になると思っています。いづつまで続くかわからない、上田知事体制への嫌がらせと感ずる政争を、県民のための良い意味での政策提言競争へと転換してもらつて、県民福祉の向上中心へと議論を変えていただきたいと思います。

埼玉県農業技術研究センターを視察

